



教授の呟き

第78回

病院内のロジスティクス

東京海洋大学 理事・副学長 苦瀬博仁

●●施設に着目したロジスティクス

ロジスティクスというと、生産・流通・消費という概念が頭をよぎり、施設も、工場・倉庫・店舗などを思い起こしてしまう。しかし商品が届けられる施設は、店舗に限らず、住宅やオフィスもある。輸送システムの変遷を考えてみても、長距離の幹線輸送が整備されると配送集荷が改善され、いまでは最終到着地での宅配サービスへと進化している。となると次は、最終到着地の施設のなかの搬送が話題になるに違いない。

こんなことを考えていたとき、東京大学大学院の医科学系研究科で併任することになり、本年の5月末までの5年間、病院のロジスティクスを研究する機会を得た。

●●病院のロジスティクスの ●●目的と内容

病院には、医薬品や医療材料（注射器、ガーゼなど）が毎日搬入されている。これらは病院内の薬局や医療材料の倉庫で保管されてから、病棟や手術室に運ばれて使用される。もしも医薬品や医療材料に欠品が生じれば、治療に差し支えたり、患者の生命を危険にさらすことになる。このため病院内においても、適切かつ確実な在庫の確保と搬送を実現するロジスティクスが重要な役割を担っている。

病院のロジスティクスとは、「医療行為に必要な物品と、病院のスタッ

フや患者の生活に必要な物品の、調達・加工・配達・処置・廃棄などを行うための管理」である。

この目的の第1は、安全で信頼性の高い医療をサポートすることである。第2は、無駄な在庫と移動を減らしコストダウンを図ることである。第3は、患者の満足度を高めるために、ロジスティクスを通じて医療関連サービスを充実させることである。これらにより第4は、病院の経営競争力を強化し、病院の価値と信頼性を高めることである。

このとき病院のロジスティクスの対象となる物品には、①医療関連物資（医薬品、医療材料、医療機器・医療設備、検体、カルテ・検査資料）、②食料品、③生活関連物資（食料品、リネン、日用品、患者手荷物、事務用品、郵便・宅配便）があり、使用後は、④廃棄物もある⁽¹⁾（図表1）。

●●病院内での医療材料の ●●ロジスティクス

病院内のロジスティクスの例として、医療材料を取り上げてみる。

大きな病院には、SPD（Supply Processing and Distribution）というシステムが導入されている。SPDとは、病院内で使用する物品を集中管理して計画的に供給するため、中央倉庫や中央材料室などの供給部門を集約して一元管理する仕組みである。そのためSPDの業務には、物品の搬入・検収・使用・供給・保管・搬送などがある（図表2）。

